



知事コラム

警察官の増員

今年も警察官の増員要望の時期になりました。実は、各県の警察官を増員する権限は知事ではなく、国にあるのです。人口を警察官の数で割った警察官1人当たりの負担人口は埼玉県が最も多く、私の就任時には埼玉県は701人、全国平均は525人でした。この状況を打開するため、国への要望を重ね、これまでに全国最多の約2,000人の増員を確保してきました。その結果、埼玉県の警察官の負担人口は636人にもまで改善しましたが、それでも残念ながら今でも対人口比で警察官の数が一番少ない状況に変わりはありません。

しかし、埼玉県の警察官はとても優秀です。警察官1人当たりの指標で見ると、平成27年中の刑法犯検挙件数は全国11位、このうち殺人、強盗、放火といった重要犯罪検挙件数は全国3位です。

同時に、埼玉県は民間の協力を得て犯罪を予防することにも力を入れてきました。民間の防犯パトロール団体数は平成16年の515団体から現在は約5,800団体に増え、ダントツの日本一。また、県内各地域を巡回して事業活動を行っている新聞販売組合や埼玉県ガス協会など96に上る事業者との防犯協定の締結、さらに青色回転灯を装備した防犯パトロール車、いわゆる「青パト」も平成17年からどんどん増えて561台にまでなりました。県警と民間の連携で、刑法犯認知件数は平成16年のピーク時に約18万1千件あったものが、27年には約7万4千件と約6割も減らすことができました。中でも住宅侵入盗は約8割減です。

ただし、最近は少し気になる数字もあります。人口の多い10の都道府県の中で、平成16年と

比べた犯罪の減少率の順位をみると、埼玉県は平成20年から25年までは2位から3位で推移していました。しかし、平成26年は4位、27年は5位と順位が下がってきています。改めて防犯体制の強化に向け、再起動のスイッチを入れる必要があると考えています。

歳末は犯罪の多くなる時期です。官民一体となって、自分たちの地域では犯罪を起こさせないという気概で、犯罪防止に取り組みたいものです。



埼玉県知事 上田 清司